



昭和電工株式会社

CSRサイトレポート2020



龍野事業所

- 事業所長ご挨拶
- 主な製品の紹介
 - 1) 環境に優しい製品づくり
- 龍野三革新活動について
- 環境関連の取り組み
 - 1) 使用電力の見える化
 - 2) 省エネルギー活動
 - 3) 産業廃棄物削減
 - 4) 環境管理
- 保安防災・安全衛生活動
 - 1) 保安防災訓練
 - 2) 救命講習
 - 3) 危険体感教育
 - 4) 適切な操作方法の教育
 - 5) 労働衛生、健康管理活動
 - 6) 表彰
 - 7) 認定
- 地域社会とのコミュニケーション
 - 1) 事業所内行事
 - 2) チャリティ・ボランティア活動
 - 3) その他

事業所長ご挨拶

2020年版CSRサイトレポートを発行するにあたりご挨拶申し上げます。
平素は昭和電工（株）龍野事業所の事業活動に、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

龍野事業所は1971年より関西の3工場が龍野に集約され操業を開始しました。永年蓄積してきた知見を活かし、成長分野である自動車・環境・電子材料向けなど合成樹脂製品の関西における生産拠点として、有用な製品の提供を通じて社会に貢献すべく活動しております。

当事業所は新幹線と山陽本線の沿線にあり、また周囲には豊かな自然と、瀬戸内海につながる揖保川が流れていることから、日頃より化学物質を安全に取り扱うことに留意しています。2004年には環境負荷を積極的に低減させるシステムとして「ISO14001」を取得し、省エネルギー・廃棄物削減・排水管理・環境に配慮した製品開発に取り組んでいます。また、安全と健康の確保が企業活動の基盤をなすものと考え、2014年1月には労働安全衛生マネジメントシステム「OHSAS18001」を取得し、継続的なリスク低減活動を展開中です。

全社中期経営計画“The TOP 2021”では個性派企業を実現し、更に世界TOPクラスの機能性化学品メーカーとなることを目標としています。龍野事業所としても、2019年にTPM活動を発展させた“龍野三革新活動”により、その基盤である「製造革新」「製品革新」「製造供給革新」の三革新を推進することで龍野事業所の強みを活かしながら、個性派事業所を実現すると共に世界TOPクラスの機能性化学品事業所を意識し事業変革に努めて参ります。

今後とも社会的責任を全うし、地域との共生により継続的に地域貢献できる事業所になるため、日々活動を続けてまいる所存ですので、本レポートをお読み頂き、皆様からの率直なご意見、ご質問、ご指導を頂ければ幸いです。



昭和電工株式会社
龍野事業所長

下出 哲也

主な製品の紹介

龍野事業所では、日本で最初に量産化技術の開発に成功した不飽和ポリエステル樹脂とビニルエステル樹脂、この樹脂をベースにしたコンパウンド（BMC、SMC）、接着用の合成樹脂エマルジョン、アミノ樹脂、溶剤系樹脂（ビニロール®）等を生産しています。

また、同敷地内には関連会社のハイパック株式会社があり、チャック付きポリエチレン袋やチャックテープも生産しています。

当事業所の製品の多くは中間製品ですが、身近なところで見かける最終製品の部材として数多く使用されています。一例を下表に紹介します。

製品	製造部署	用途
不飽和ポリエステル樹脂 ・液状樹脂 ・コンパウンド BMC SMC	第一製造課 第三製造課	・浄化槽 ・人造大理石 ・レジンコンクリート ・漁船 ・レジャーボート等 ・管更生 ・自動車 （ランプリフレクター等） ・プレーカー・パネル         
ビニルエステル樹脂	第一製造課	・耐食用FRP（タンク等） ・ライニング・ヘルメット ・レジストインキ（プリント基板）  
合成樹脂エマルジョン アミノ樹脂 溶剤系樹脂 （ビニロール®）	第二製造課	・一般接着 ・住宅建材 ・紙加工 ・粘着 ・リチウムイオン電池 ・土木 ・遮熱塗料       
・チャック袋 ・チャックテープ	ハイパック （関連会社）	・食品用途 （ボイル食品用） ・医療用途 （嫌気培養用） ・大型製品防湿・防水用途 （工場内保管・輸出梱包用）    

1) 環境に優しい製品づくり

龍野事業所は「環境に優しい製品づくり」を念頭に、日々仕事に取り組んでいます。

長年蓄積してきた広範囲な独自技術により、様々な分野における製品を開発・製造しています。



◆リチウムイオンバッテリー用接着剤

スマートフォン、タブレット型端末や、普及拡大が期待される電気自動車に使用されるリチウムイオンバッテリー用の接着剤を開発しています。

従来は人体や環境への影響が懸念される有機溶剤を用いた接着剤が主流でしたが、「人や環境に優しい製品を創りたい」という信念のもと、有機溶剤を使わない水系の接着剤を開発しました。

お客様での評価も良好で、実用化が進んでいます。



スマートフォン、タブレット型端末



電気自動車



車載用バッテリー

◆ハイブリット/電気自動車モーター用封止材

自動車の低燃費化や排出ガス削減のニーズが世界的に高まり、ハイブリット/電気自動車の市場拡大が期待されています。

当事業所では、ハイブリット自動車などの環境対応車に使用されているモーター部材を封止（固定）する材料として熱硬化性成形材料（Bulk Molding Compound 以下、「BMC」）の製造を行っています。



ハイブリット自動車用モーター

今後も、社会や市場の変化を予測し、社会的価値の高い製品を開発・提供していきます。

龍野三革新活動について

◆龍野三革新活動とは

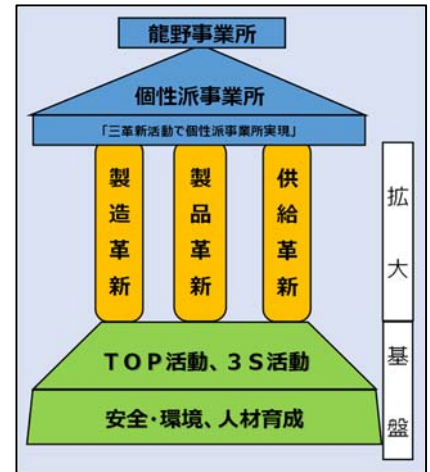
龍野事業所では2019年より独自活動であるTTI活動※¹（龍野三革新活動）を開始しました。

『三革新活動で個性派事業所実現』をスローガンとし、右の概念図の通り 製造革新、製品革新、供給革新、TOP活動※²、3S活動、安全環境、人材育成、の7チーム（部会）で活動を行っています。

※¹ TTI=Tatsuno Three Innovations の略 龍野三革新

※² TOP=Tatsuno Oita Production の略 龍野大分プロダクション

（主に製造現場の安全・環境・作業効率等の改善活動を行っています）



TTI活動の概念図

◆キックオフ大会

2019年7月にキックオフ宣言し、9月にキックオフ大会を開催しました。

キックオフ大会では、各チームの決意表明と本社メンバーの方々との意見交換などを行いました。

本活動が、事業所一丸となって取り組む将来を見据えた活動であることを改めて認識できる場となりました。



TTIキックオフ大会の様子



製造課相談会の様子

◆TTI推進委員会・相談会

TTI活動では、各部署で課題とされる製造時間の短縮や収率アップ、ロスの削減などのコストダウンの取り組みや、課長（リーダー）の想いをもとに、現場や職場の安全・環境・品質・作業効率等の改善活動に取り組んでいます。

各チーム（部会）の取り組みの進捗確認やTTI活動の運営・方向性など決める場として、毎月1回、推進委員会を開催しています。更に改善活動で困っていること、課題に対するアイデアを出し合う場として毎月1回、相談会を開催しています。

◆サークル活動発表会

龍野事業所では各チームで取り組んできた活動について、4月と10月に年2回、龍野事業所サークル活動発表会を開催しています。

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当事業所以外のメンバーはオンラインでの参加となりましたが、活発な意見交換を行うことができました。

今後このTTI活動（龍野三革新活動）を通じて、改善活動の活性化や推進に努めていきます。



サークル活動発表会の様子

環境関連の取り組み

1) 使用電力の見える化

省エネルギー活動を推進するため、電力監視システムを導入しています。主要製造施設、ユーティリティの電力使用状況がリアルタイムで見える様になっており、各課の省エネルギー活動に役立っています。

事務所入り口にモニターを設置していますので、ご来場の際は是非ご覧下さい。

龍野事業所はこれからも省エネルギー活動を推進し、環境に優しい製品づくりに努めて参ります。



電力監視システムモニター

2) 省エネルギー活動

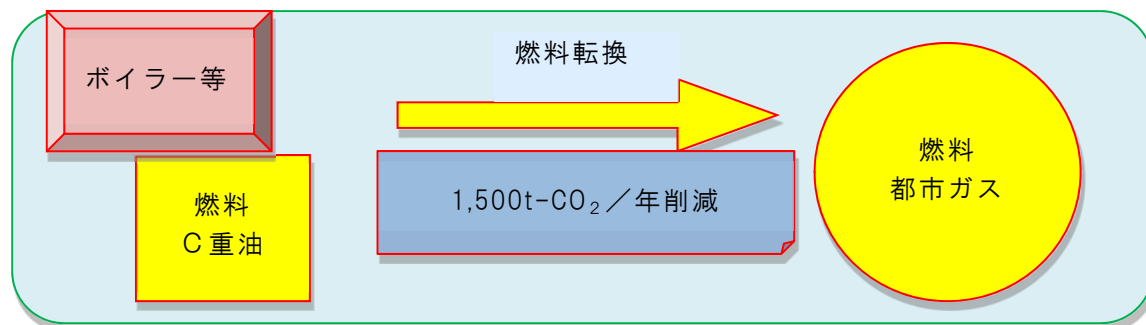
◆ボイラー等燃料装置の燃料転換

2015年から、ボイラー等燃焼装置の燃料をC重油から都市ガスへ転換することで、排ガスのクリーン化とボイラー効率向上による省エネルギー化を図っています。

これにより温暖化ガス排出量 1,500t-CO₂/年削減を達成しました。また、排ガス中のばい塵や酸性雨の原因となる硫黄酸化物の削減にも寄与しています。



ガス炊きボイラー



◆冷却水ポンプの更新

電力監視システムの活用により、電力使用量の解析をして、電力使用量の削減対策を推進しています。

長年使用している冷却水ポンプの更新に際し、高効率モーターを選定して、電力削減を図っています。

プラントの重要なユーティリティ設備でもある冷却水ポンプは、稼働時間も長く、省エネルギー効果が見込める機器で、1台あたり年間で約15千kWhの省エネルギーになりました。



高効率モーターの冷却水ポンプ

◆照明のLED化、エアコンの更新

事業所内の水銀灯や蛍光灯などの照明やエアコンを、随時省エネルギータイプに更新しています。

事務所棟に続き、研修棟の照明をLEDに、エアコンを省エネルギータイプに更新しました。これにより、事務所の照明はすべてLEDに更新を完了しました。一方、製造施設の照明についても、水銀灯からLEDへの更新（2019年までにおよそ60%更新）を推進しています。



LEDに更新した事務所の照明



省エネルギータイプに更新したエアコン室外機



製造施設の照明（水銀灯）



製造施設の照明（LED）

◆アルミ缶リサイクル活動

アルミ缶リサイクルは、ゴミの削減だけではなく、省エネルギーにもつながる活動です。

使用済アルミ缶を再利用して地金をつくると、ボーキサイト（アルミの原料）から地金をつくるよりも、97%のエネルギーを削減できます。

昭和電工グループ全体で、アルミ缶のリサイクル活動を推進しています。龍野事業所でも積極的に本活動に参加し、ゴミの削減と共に省エネルギーにも貢献します。

（2019年アルミ缶回収実績：参加率 99.6%
回収数 29,813 缶）



昭和電工グループの
アルミ缶リサイクル活動推進ポスター

3) 産業廃棄物削減

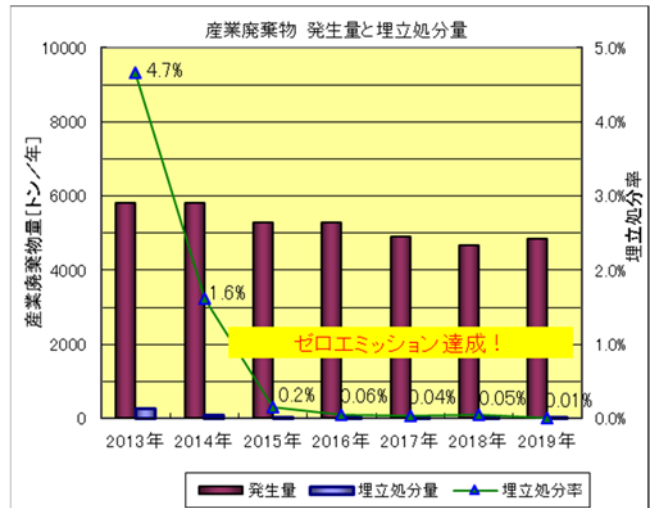
◆ゼロエミッション達成

龍野事業所では、産業廃棄物発生量に対する最終埋立処分量を1%以下にすること（ゼロエミッション）を目標とし、産業廃棄物の見直しを進めてきました。

2014年から新型脱水装置の導入により、産業廃棄物の汚泥の含水率を低く抑えたことで、リサイクル処理可能となりました。その結果、2015年より目標の埋立処分率1%以下（ゼロエミッション）を達成することができました。

2017年はガラスくずのリサイクル処理が可能な廃棄物処理業者に委託先を変更することで更なる埋立処分量の削減に取り組みました。

2018年には法令で処理期限が設定されているPCBの処理を完了させました。



◆リサイクル推進活動

事業所内の焼却炉で焼却処理をしていたプラスチック容器やビニール袋、シートなどは、2015年より事業所全体で分別回収を行い、その一部をリサイクル業者に有価売却しています。

またそれ以外にも、紙類、ダンボールのリサイクルの推進、2016年から潤滑油の再利用（リユース）を開始し、更なる廃棄物の削減及びリサイクルの推進に努めています。

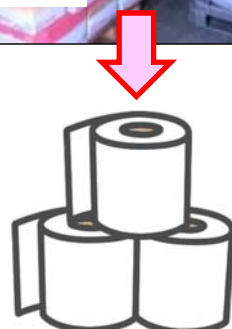
リサイクル用 ポリビン・ポリ容器類

- ・容器の色は問わず、素材はPP、PEなら可。
- ・蓋、中キャップも一緒でも可。
- ・ラベルやシール類は剥がさなくても可。
- ・容器は必ず洗浄すること。
- ・汚れ、樹脂が付着しているものは不可。

リサイクル用 フィルム・袋類、 PPバンド・PP紐、PEサニット手袋類

- ・色は問わず素材はPP、PE、PETなら可。
- ・ラベルやシール類は剥がさなくても可。
- ・袋・フィルムに印刷されているものも可。
- ・但し、製造課で多量に発生するラップや袋類、PPバンド類は、できるだけ同一袋にすること。
- ・汚れ、樹脂が付着しているものは不可。

プラスチック類の分別ルール



回収された書類等は、トイレットペーパーにリサイクルされます。



回収された潤滑油は、業者がゴミを焼却するための燃料として再利用（リユース）されます。

4) 環境管理

◆ ISO14001:2015年版での認定

龍野事業所では、環境マネジメントシステムの国際標準規格であるISO14001の認証を2004年に取得しました。そして、2018年の1月より、最新規格であるISO14001:2015での認証を受け、継続して環境保全に関する改善活動を行っています。



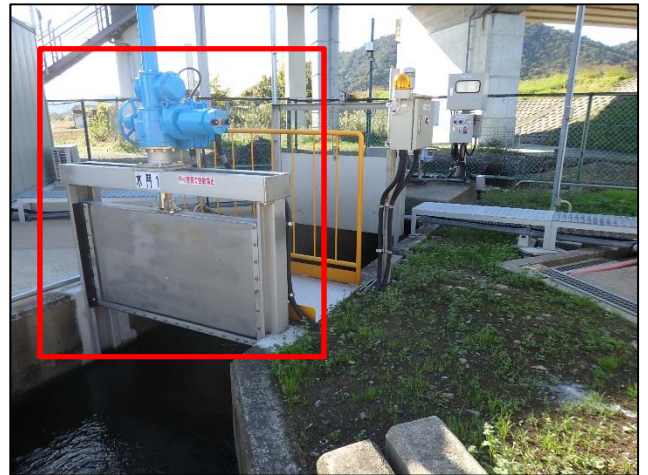
ISO14001 認証書

◆ 環境管理と監視機器

事業所周辺環境の保全対策として、異常を早期に検知し素早い対応がとれるように監視機器を設置しています。

事業所の排水には、雨水等の一般排水と製造に使用した工場排水があります。工場排水は、事業所内で凝集沈殿及び微生物分解により有害物进行处理してから排出しています。

排水路は24時間体制で監視しており、通常と異なる数値が検出された場合には、直ちに水門が自動で閉まり、事業所外への有害物の排出を防止しています。



排水路の自動開閉式水門

大気へ放出される排ガスは、主にボイラー、焼却炉で燃料やゴミを燃焼させた時に出るガスです。最適な燃焼状態を保つように運転管理と定期的な排ガス測定を行い、環境負荷物質の監視に努めています。

また、事業所の臭気には細心の注意を払っており、発生源の特定と対策を推進するため、敷地境界付近の6箇所に臭気センサーを設置して24時間体制で監視し、臭気異常を感知できるようにしています。



臭気センサー

◆監視機器の更新と緊急退避槽等の設置

2018年に、水質関連の環境監視機器の一つである全窒素・全りん自動測定装置（以下、TNTP計）の更新を行いました。その際、測定結果に対する直射日光や外気温、風雨等の影響を避けるために、専用の小屋を設置し、常に正確なデータを取得できる測定環境を整えました。

小屋内には緊急時に使用する備品も取り揃え、万一の際に迅速な対応が行えるようにしています。



環境監視機器用の小屋

事業所の一般排水は通常、雨水や間接冷却水等のきれいな水ですが、万一汚染された水が流出しても適切に貯留できるように緊急退避槽を整備しました。

これにより、通常時の排水量で約3~4時間分の排水を貯留することができるようになりました。

引き続き、事業所の周辺環境に配慮した取り組みを積極的かつ継続的に進めていきます。

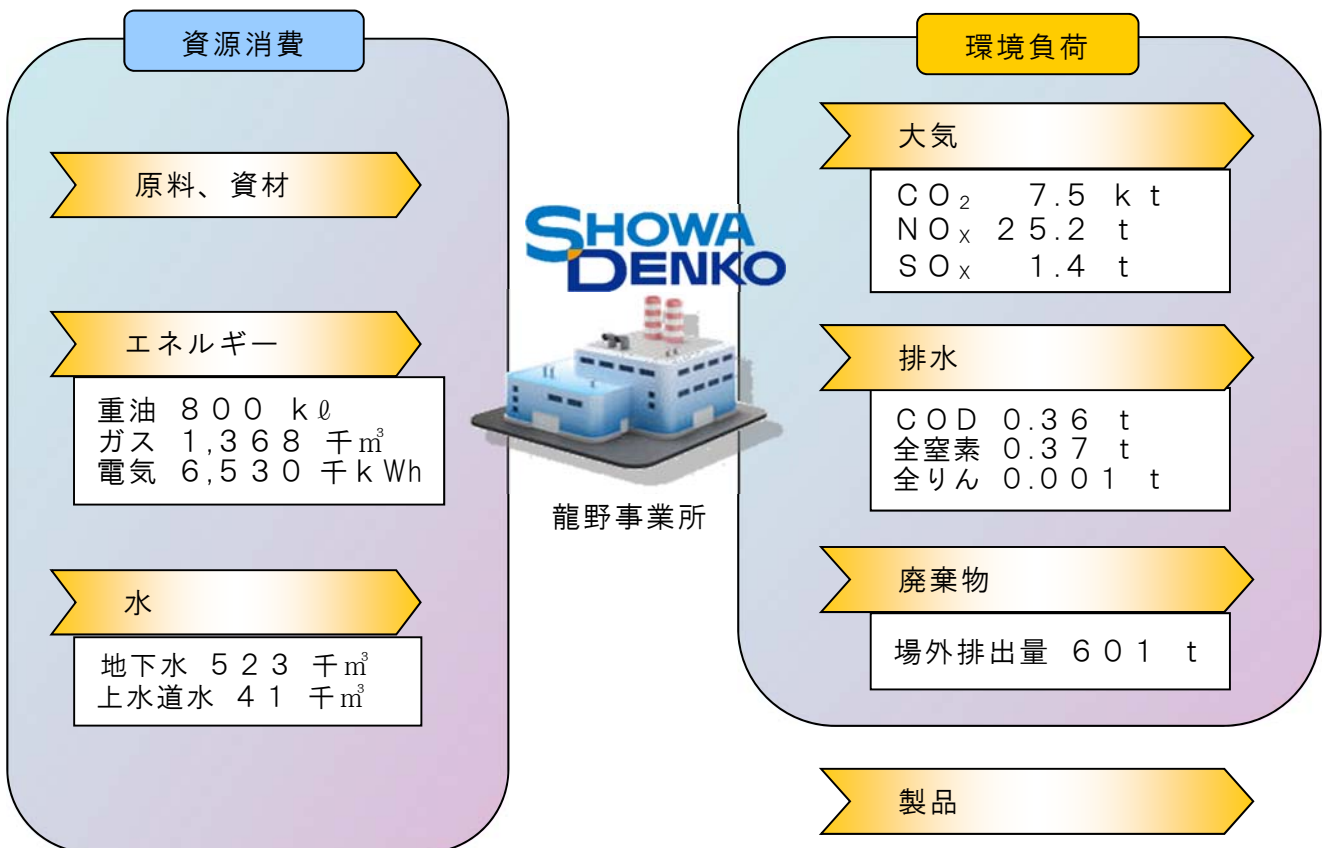


新規水路

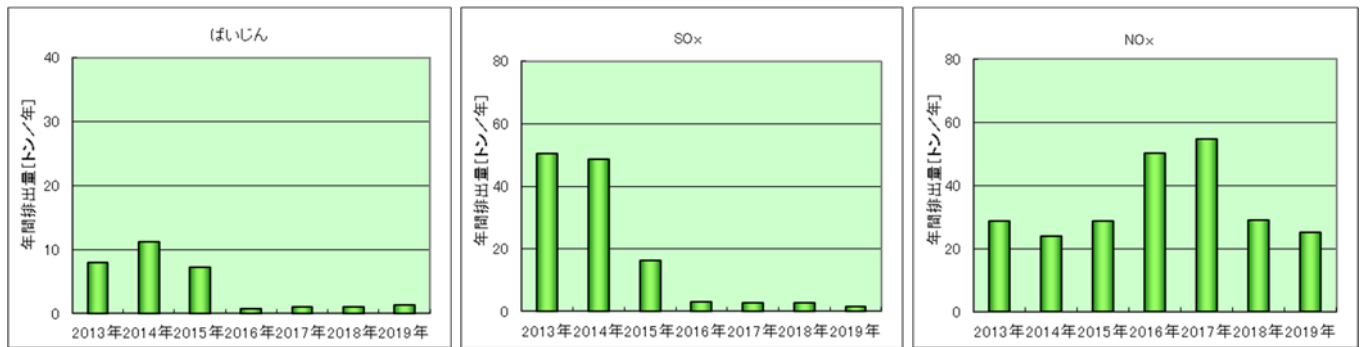


緊急退避槽

◆環境負荷の概要（2019年）



◆大気関係（2019年1月～12月）

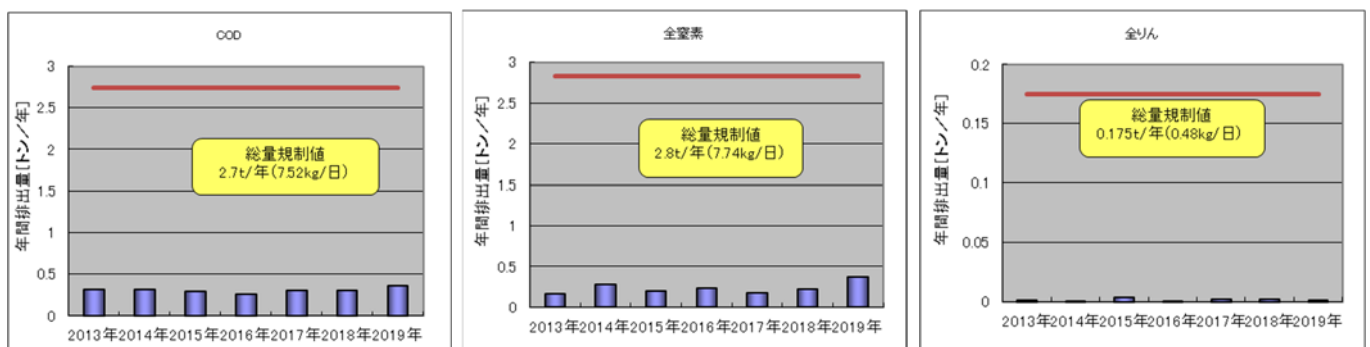


ばいじんは燃焼の際に発生・飛散する微細な物質です。SO_xとは硫酸化物のことで、燃料中の硫黄分が発生源となります。NO_xとは窒素酸化物のことで、光化学オキシダントの原因物質とも言われ、燃料の燃焼などにより発生します。いずれも呼吸器系への健康被害を起こす可能性がある物質で、排ガス中の濃度に対する規制があります。適切な燃焼状態の管理と定期的な濃度測定を行い、規制値を遵守しています。

2015年にボイラー等の燃料転換（C重油から都市ガスへ）を行い、ばいじんとSO_xの総量は年々低減していますが、2016年より自家発電設備（コジェネボイラー設備）の有効活用を行ったため、NO_xが増加しました。

今後、設備の有効活用をしつつ、NO_xの削減に努めていきます。

◆水質関係（2019年1月～12月）



CODとは「化学的酸素要求量」のことであり、水中の有機物を化学的に分解した際に消費される酸素の量で表され、数字が高いほど有機物が多く、汚濁が進んでいることを示します。

窒素、りんは、植物性プランクトンの栄養源であり、赤潮の原因物質とされています。

いずれの項目も排水中の濃度を24時間連続測定にて監視しており、総量規制値より大幅に低い値で推移しています。

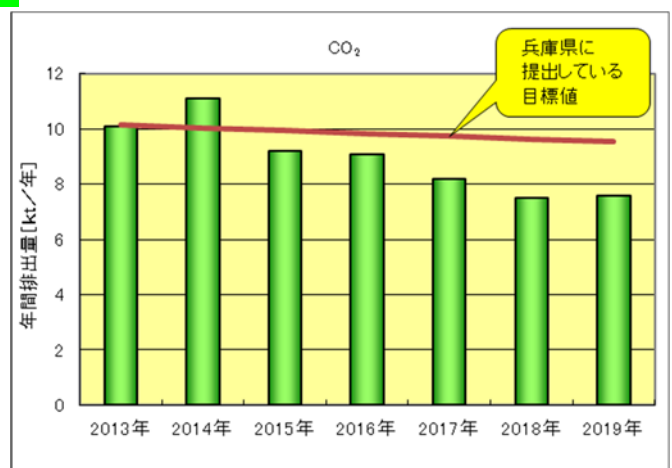
◆地球温暖化防止対策（2019年4月～2020年3月）

地球温暖化の原因とされる二酸化炭素（CO₂）排出抑制に取り組んでいます。

2015年のボイラー設備などの燃料転換（C重油から都市ガスへ）によるおよそ1.5kt-CO₂/年の削減に加え、その他の省エネルギー施策を実施し、CO₂を大幅に削減することができました。

さらに省エネ効果の高いLED照明やエアコンの採用、高効率設備の導入により地球温暖化防止対策を推進しています。

*CO₂排出量は電力の排出係数を0.358(基準年:2013年)に固定



保安防災・安全衛生活動

1) 保安防災訓練

龍野事業所では、万一の災害に備えて消防訓練、防災訓練を実施しています。

◆消防訓練

2019年10月、消防訓練を実施しました。

火災の状況、消火活動の状況、保有危険物、負傷者の有無などの情報を公設消防に伝達する訓練や、延焼防止を目的とした放水訓練を実施しました。

前回訓練における指摘事項（火災発生時に周知する声が小さい・放水開始時停止時の合図を掛け声と手信号で行うとさらに良い）が改善できていることを確認できました。



公設消防への状況説明の様子（伝達訓練）



放水訓練の様子

◆消火器訓練

消防訓練の実施に併せて、消火器訓練を実施しました。

消防設備士から指導を受けて、実際の火を消火器で消す訓練を行いました。



消火器訓練の様子①



消火器訓練の様子②

2) 救命講習

毎年、たつの消防署による救命講習を受講しています。

救命処置の重要性（救命の連鎖）の教育後、心肺蘇生やAEDの扱い方を、人形を使って学びました。

繰り返し訓練が必要なことですので、今後も継続していきます。



心肺蘇生の説明の様子



受講生の訓練の様子

3) 危険体感教育

龍野事業所では、作業や設備の危険（怖さ）体感教育を行い、安全意識向上や安全活動の活性化に努めています。

2018年には、各製造課が教育テーマを決め、教育機材や資料を準備し、事業所内に展開しました。内容を幾つかご紹介します。

◆ 粉塵爆発

粉塵爆発が起こる原理を解説し、粉塵爆発を起こす実験機器で、どのように爆発するのかを体感してもらいました。

◆ 高圧洗浄機の威力

高圧洗浄機（水を勢いよく噴出できる機器で、機器や容器の洗浄に使用）からの噴出水を肉片や木材、作業服に当てて、どれ程のダメージを受けるかを観察しました。

◆ カッターの危険性

製品を切断する機器に、木の棒に刺したウィンナーを指に見立て、切断の衝撃や怖さを体感してもらいました。



粉塵爆発体感の様子



高圧洗浄機による切傷リスク体感教育



カッター装置による切断体感の教育

切断された「棒付きウィンナー」↑

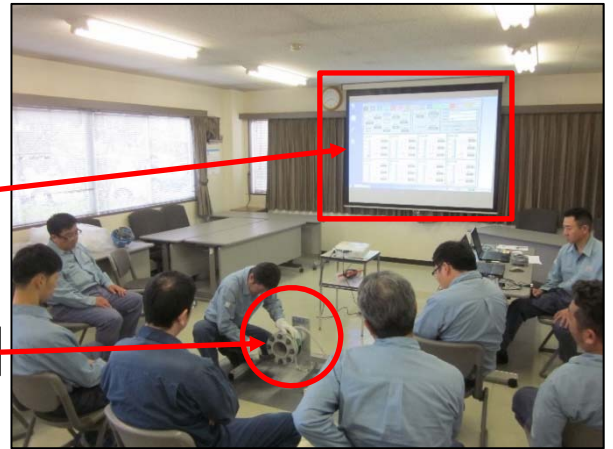
4) 適切な操作方法の教育

事業所内には、原料や製品を送液する為の配管があり、その接合部はフランジと呼ばれる継手で接続されています。フランジが均等に締まっていななどの不具合があると、内部の溶液が漏洩してしまいます。

フランジシミュレーターという体感装置により、フランジの正しい締め方について学びました。これまでできていたと思っていた締め付け具合が、数字で表示されることで、不均一であることが判明し、受講者は配管の接続の難しさと大切さを体感しました。

8本のボルトの締め付け具合の経時変化が、数字やグラフで表示されます。

フランジシミュレーター本体



フランジシミュレーター教育の様子

5) 労働衛生、健康管理活動

◆ 粉体原料取扱いへの対策

粉体原料の取扱いにあたり、作業者のばく露を防止するために、粉じんの捕集効率の高い防塵マスクの着用や集塵効率の高い集塵装置への更新を実施しました。



防塵マスク

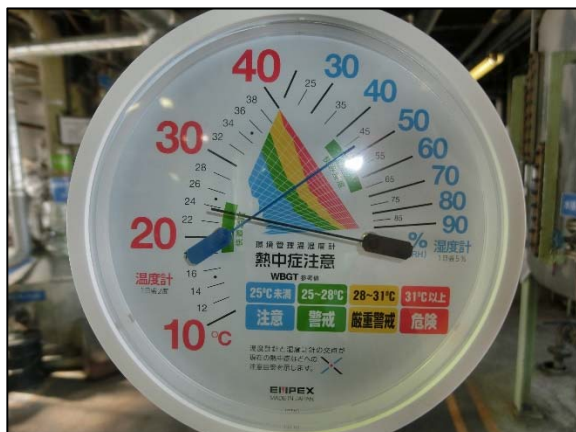


集塵装置

◆ 熱中症対策

近年の温暖化の影響により熱中症対策は重要な案件となっています。

当事業所では、各製造課の作業エリアに WBGT 温湿度計の設置、個々人の体調確認、休憩時間の管理、水分塩分補給、塩タブレット配布、毎朝の注意喚起メール配信、注意喚起のぼり旗の設置を実施することで、熱中症予防に努めています。



WBGT 温湿度計



注意喚起ののぼり旗

◆健康管理セミナー

従業員の健康維持活動の一環として、2019年6月に管理栄養士をお招きし、食の健康セミナーを開催しました。テーマは、健康づくり、食生活、生活習慣病予防で、16名が出席しました。

特に印象に残ったことは、一日に摂取する理想的な食事内容を回転するコマをたとえに、「食事内容が悪いとバランスを崩しコマは倒れてしまう。」と説明いただいたことです。日常食べている食事内容とそのバランスが重要であることを改めて学ぶことができました。



セミナーの様子

6) 表彰

◆石油化学工業協会 保安表彰

当社製造課の川村係長が「2019年度 石油化学工業協会 保安表彰」を受賞し、2019年10月16日、東京・都市センターホテルにて開催され「第37回保安推進会議及び第11回保安表彰式」にて表彰状が授与されました。

この表彰は、石油化学工業協会会員会社の事業所で、作業を直接指揮する職長等を対象としており、一定の技能と経験を有し、担当する職場又は部署が優良な安全成績をあげた安全意識の高い方を表彰するものです。



表彰の様子①（左：川村係長）



表彰の様子②（後列右端：川村係長）

7) 認定

◆OHSAS18001 認定

当事業所では、労働安全衛生マネジメントシステム（OHSAS18001）の認定を取得しており、毎年行われる外部審査を受審し、認定を維持しています。

2020年からはISO45001システムに移行し、労働災害防止活動を推進していきます。



OHSAS18001 認定書

地域社会とのコミュニケーション

1) 事業所内行事

◆事業所見学会（近隣自治会）

2019年7月、近隣の3自治会を対象とした事業所見学会を実施、17名が参加されました。

龍野事業所で製造している製品を知っていただくために、開発部のメンバーによる各製品の用途説明を行いました。「我々の身近な物を作っているのですね！！」といった感想もあり、龍野事業所の製品をよくご理解いただくことができました。

また、事業所の自家発電装置、排水設備、環境監視装置等の見学も行いました。環境対応への取り組みをご理解いただくと共に、事業所の美化活動についても良い感想をいただきました。

見学会を通じ、近隣自治会の方々と有意義な意見交換ができました。これからも地域の皆さまと事業所見学会やその他の活動を通して、近隣の方々との交流・地域社会への貢献に努めていきます。



製品紹介



工場見学

◆納涼祭

2019年8月、国民宿舎赤とんぼ荘にて、龍野地区として初めて納涼祭を開催しました。

当日は従業員とご家族151名、ご来賓12名、協力企業63名と、総勢226名の方々にご参加いただきました。

今後も工夫を凝らした納涼祭を継続して実施し、龍野地区で働く人とご家族に信頼され、身近に感じていただける事業所を目指してまいります。



納涼祭の一幕

◆トライやるウィーク

2019年11月、中学生の就業体験活動「トライやるウィーク」の一環として、龍野西中学校の2年生5名に龍野事業所の職場体験をしていただきました。職場ではシール作り体験やPC体験など、実際の業務に沿った課題に取り組みました。

一週間、各職場での体験を通じて普段とは違う『仕事』の楽しさ・大変さを感じたようです。今後も地域の将来を担う中学生の体験・成長する場の提供を継続してまいります。



シール作り体験

◆高専生インターンシップ受け入れ

2019年9月、神戸市立工業高等専門学校 応用化学科から1名のインターンシップを受け入れました。5日間の期間中、エマルジョンの重合の見学や、BMCのテストピース作成などの業務体験をしていただきました。

インターンシップ生からは「お客様がどういった状況で使う物質なのか考えて開発することや、他部署と連携しながら仕事を進めることの重要性を学べた。」等の感想があり、学校ではなかなか得られない多くの気づきが得られていたようでした。

今回の実習で得た経験が、今後の学生生活や就職活動で役に立つことを願っています。

◆龍野商工会議所主催 工場見学ツアー受け入れ

2019年12月、龍野商工会議所主催の工場見学ツアーを受け入れました。当日はガイドを含めて26名の方にご参加いただき、場内にある関連会社のハイパック(株)龍野工場にて、チャック付きポリ袋の製造工程をご覧いただきました。

地域経済の活性化に貢献すべく、今後もこうした取り組みに積極的に協力してまいります。

2) チャリティ・ボランティア活動

◆ゴミ拾いボランティア活動

2019年4月、たつの市が主催する「三世代ふれあい全市一斉清掃活動」に先立ち、周辺地区の清掃ボランティア活動を初めて行いました。当日は37名のボランティアが集まり、事業所周辺や普段通勤で利用する道沿いのゴミ拾いを行いました。

拾ったゴミの総重量は34kgに及び、参加者からも「意外とゴミが多くてビックリした」等驚きの声が上がりました。

社会貢献、そして地域の美化のため、今後もこのような活動を積極的に行ってまいります。



ゴミ拾いボランティア活動

◆マラソン大会協賛・運営ボランティア協力

2020年1月、第48回たつの市梅と潮の香マラソン大会に協賛し、運営ボランティアに参加しました。ボランティアは早朝から参加賞交換係として、大会特製Tシャツ等の記念品を参加者に手渡しました。

また下出事業所長をはじめ従業員10名がランナーとして出場し、爽やかな晴天の下、全員が無事に完走しました。

今後もイベントへの協賛を通じて、昭和電工をより多くの方に知っていただき、地域から信頼される事業所になれるよう努めてまいります。また健康増進とランナー懇親の場として、継続して大会へ参加してまいります。



大会後の記念撮影

◆社会福祉協議会への車いす寄贈

2019年12月、アルミ缶リサイクル活動で集まった寄付金で車いす2台を購入し、たつの市社会福祉協議会へ寄贈しました。今回が2回目の寄贈となります。

寄贈した車いすは、同協議会が実施している車いすの貸し出し事業に役立てられるとのことでした。

来年以降も継続的に社会福祉協議会への寄贈を行う予定です。アルミ缶リサイクル活動を推進し、地域社会へ貢献してまいります。



車いす2台を寄贈

3) その他

◆たつの市長へのご挨拶

2020年1月、下出事業所長がたつの市役所を訪問し、山本市長へご挨拶を行いました。たつの市の雇用情勢について情報交換を行い、この地で約50年にわたり操業している当社の雇用の維持・拡大について、期待の言葉をいただきました。また、たつの市の町おこし活動についても活発に意見を交わしました。

今後も地域の皆様に当社のことを知っていただきながら、共に発展を図ってまいります。

◆事業所周辺清掃活動

毎年6月初めの田植え前に、事業所周辺の草刈りと水路の掃除を全従業員で実施しています。草刈り清掃作業当日は、晴天であったため作業は順調でしたが、気温が高かったため、水分補給と十分な休憩に注意して作業を行いました。予定通り事業所周辺をきれいにすることができました。

今後もこのような清掃活動を継続していきます。

発行年月 2020年11月

《本レポートに関するお問い合わせ先・発行元》
昭和電工株式会社 龍野事業所 総務グループ
〒679-4155

兵庫県たつの市揖保町揖保中 251-1

T e l : 0791-67-1111

F a x : 0791-67-0655

[表紙写真 龍野事業所の航空写真]